

教育学研究科教員業績一覧

(2007年4月1日～2008年3月31日)

教育学コース

今井康雄(教授)

<論文(単著)>

「教育とメディア」北田暁大／大多和直樹編著『子どもとニューメディア』(リーディングス・日本の教育と社会, 第10巻), 日本図書センター, 2007年6月, 118-128頁.

“From “Postwar Pedagogy” to “Post-Cold War Pedagogy”: An Overview of the History of Educational Theory in Japan 1945-2007”, in: *Educational Studies in Japan: International Yearbook*, No.2, 2007年12月, pp. 57-73.

<翻訳>

パルメンティエー「美的人間形成論」『研究室紀要』(東京大学大学院教育学研究科教育学研究室), 第33号, 2007年6月, 131-150頁.

川本隆史(教授)

<雑誌論文>

川本隆史(単著), 「社会・正義・ケア——「ことば」から「倫理」へ」, 東京大学編『学問の扉——東京大学は挑戦する』, 講談社, 2007年, pp.2-13.

川本隆史(単著), 「「老い」の厚みと広がりをつかえる——日本倫理学会の挑戦」, *Dia News* (発行=財団法人ダイヤ高齢社会研究財団) 51号, 2007年, pp.3-6.

<その他の業績>

川本隆史(学会発表), 「シティズンシップの教育と倫理——デモクラシー・市民根性・ケア」, 日本平和学会2007年度春季研究大会・部会IV, 2007年6月10日(早稲田大学14号館)

川本隆史(講演), 「ケアリングの教育と倫理——〈伝え合う力〉を編みなおすために」, 文部科学省委嘱事業(平成19・20年度): 「伝え合う力」を養う調査研究事業による公開教育研究会, 2007年10月26日(東広島市立高美が丘中学校)

川本隆史(講演), 「*PUERILIS INSTITUTIO*の諸帰結——社会教説・社会倫理・社会正義」, 上智大学哲学会秋季大会, 2007年10月30日(上智大

学7号館)

小玉重夫(准教授)

<著書・共著>

『教育の理論のために—理論的応答』(第3章「学校選択と政治概念の転換」, pp.39-58を執筆, 田原宏人・大田直子編, 全256頁, 世織書房, 2007年5月)

『学力とトランジションの危機—閉ざされた大人への道』(第10章「大人への回路を開く—ペダゴジーの再構築へ向けて」, pp.183-199を執筆, 耳塚寛明・牧野カツコ編, 全206頁, 2007年12月)

<その他の業績>

小玉重夫(口頭発表)「戦後教育学における公儀と秘儀・試論」(日本教育学会第66回大会ラウンドテーブル企画テーマ: 戦後教育研究の「失敗」について, 慶應義塾大学三田キャンパス, 2007年8月30日)

小玉重夫(単著)「書評・宮寺晃夫著『教育の分配論—公正な能力開発とは何か』」(『教育哲学研究』第95号, pp.124-129, 2007.5.)

小玉重夫(単著)「教育基本法第14条 政治教育」(浪本勝年・三上昭彦編『「改正」教育基本法を考える』北樹出版, pp.89-92, 2007.7.)

小玉重夫(単著)「PBLとシティズンシップ教育」(『学びから始まる教育改革—日本PBL研究所設立記念セミナー全記録』特定非営利活動法人日本PBL研究所, pp.29-35, 2007.10.)

小玉重夫(編著)『報告書 教育研究の「失敗」』(独立行政法人日本学術振興会人文・社会科学振興プロジェクト研究領域I-②「失われた10年」の克服—日本の社会システムの再構築プロジェクト研究「日本の教育システム」研究グループ: 教育研究の「失敗」サブグループ報告書, 小玉重夫編著, 全168頁, 2007.10.)

小玉重夫(単著)「公共性をはぐくむシティズンシップ教育」(『幼児の教育』第107巻第3号, 日本幼稚園協会, 2008.3., pp.4-7)

小玉重夫(編著)『アメリカおよび日本におけるシ

ティズンシップ教育の思想史的文脈とその変容』平成17-19年度科学研究費補助金基盤研究 (C) (2) 研究成果報告書 (研究代表者小玉重夫) 全56頁, 2008.3.

小玉重夫 (単著) 「書評・酒井朗編著『進学支援の教育臨床社会学—商業高校におけるアクションリサーチ』」『人間発達研究』第30号, 2008.3. pp.13-16

谷本宗生 (助教)

<辞典>

谷本宗生 (編著), 『近現代日本人物史料情報辞典』3 (「外山正一」「古在由直」担当), 吉川弘文館, 2007, 総頁数375.

<論文>

谷本宗生 (単著), 「戦後石川における教員養成の選択肢 戦後の石川師範学校」, 『金沢大学3学域と総合大学の教員養成の新機軸 地域における教員養成の過去・現在・未来』, 金沢大学, 2007, pp. 4-7.

谷本宗生 (単著), 「東西両帝国大学対抗運動週間の実施について 大学史像の探究」, 『東京大学史史料室ニュース』第39号, 東京大学史史料室, 2007, pp. 3-5.

<報告書>

谷本宗生 (単著), 「公文書の選別・廃棄作業に対する疑問・問題点について」, 『大学所蔵の歴史的公文書の評価・選別についての基礎的研究』(平成17-19年度科学研究費補助金基盤研究B 研究成果報告書), 2008, pp.67-77.

<その他の業績>

谷本宗生 (パネリスト), 「金沢大学3学域と総合大学の教員養成の新機軸 地域における教員養成の過去・現在・未来」, 金沢大学資料館・附属図書館シンポジウム, 2007.

谷本宗生 (遺構解説), 「旧加賀屋敷御守殿門番所」(東京大学創立130周年記念 知のプロムナード事業設営), 2008.

比較教育社会学コース

白石さや (教授)

<著書>

「ポピュラーカルチャーと東アジア」西川潤・平野健一郎編『東アジア共同体の構築3: 国際移動と社会変容』岩波書店, 2007年9月27日, 203~226

ページ.

<訳書>

白石隆との共訳, 『定本 想像の共同体』書籍工房早山, 2007年7月31日.

<その他の業績>

学会発表・研究会報告

「大衆文化とく緩やかな文化共同体・東アジア」の形成: マンガ・アニメの事例から」国際シンポジウム『中日韓三国大衆文化相互交流とその影響』於 北京 中国社会科学院日本研究所, 2007年7月28日.

「何処から? 何処へ? 遍路札所としての高等教育ネットワーク構築」アジア政経学会年次大会シンポジウム『アジアにおける留学の新段階: アジア諸国の高等教育戦略と留学政策』於 東京女子大学2007年10月13日.

「アチェ語教科書にみるく地方語」およびく地方世界」の成立」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト『インドネシアの国語政策と言語状況の変化』於 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2008年2月28日.

社会活動

海外交流審議会『日本の発信力強化のための5つの提言』提出. 2007年6月20日.

外務省平成19年度元日本留学者の集い (東南アジア・中国) 講演会講演「日本のポピュラーカルチャーと東アジア」於東京プリンスホテル2007年6月5日.

独立行政法人国際協力機構『インドネシア大学日本研究センター支援計画第3フェーズ』「第4班 マスメディアと市民社会」プロジェクトの指導. 東京大学 シンポジウム『アジアと語る希望・幸福 (Dialogue with Asia on Hope and Happiness)』日本・アジアに関する教育研究ネットワーク (ASNET) 主催「セッション 幸福2 企画司会 於 東京大学弥生講堂 2007年11月3-4日.

外務省主催第一回国際漫画賞 実行委員会委員2007年7月2日.

橋本 鉦市 (准教授)

<雑誌論文>

橋本鉦市 (単著) 「広がる専門職大学院/早稲田大学公共経営専門職大学院 『公共』という新たな

領域に切り込む』『カレッジマネジメント』148号, 2008, pp.40-48.

橋本鉦市(単著)「戦後高等教育政策におけるイシューとアクター—国会・文教委員会会議録の計量テキスト分析—」『東北大学大学院教育学研究科年報』第56第1号, 2007, pp.71-87, 2007.

橋本鉦市(単著)「広がる専門職大学院／京都大学社会健康医学系大学院 社会的要請を受け制度第一号」『カレッジマネジメント』147号, 2007, pp.66-69.

橋本鉦市(共著)「学問風土の研究(4)—東北大学の研究と教育」(石井美和・丸山和昭・佐藤明日香との共著)『東北大学大学院教育学研究科年報』第55第2号, 2007, pp.43-64, 2007.

橋本鉦市(共著)「『おやじの会』と父親の育児参加2—B会を事例として—」(京須希実子との共著)『東北大学大学院教育学研究科年報』第55巻第2号, 2007, pp.13-26.

橋本鉦市(単著)「初年次教育をどう位置づけるか 東北大学—全学部横断の基礎ゼミで研究大学型少人数教育を実践」『カレッジマネジメント』145号, 2007, pp.10-13.

橋本鉦市(単著)「高等教育学会の10年—組織編成と知識形成」, 『高等教育研究』第10集, 高等教育学会, 2007, pp.7-29.

<その他の業績>

橋本鉦市(学会発表)「女子大学院生のライフコースとキャリア展望—インタビュー調査を中心として—」(石井美和との共同発表), 東北教育学会第65回大会(東北大学)2008年.

橋本鉦市(学会発表)「高等教育をめぐる政策形成の変容と課題」, 教育社会学会第59回大会課題研究(茨城大学), 2007年.

橋本鉦市(学会発表)「専門職大学院の教員組織と教育体制」(石井美和との共同発表), 日本高等教育学会第10回大会(名古屋大学), 2007年.

本 田 由 紀 (准教授)

<著書>

本田由紀(単著), 『「家庭教育」の隘路』, 勁草書房, 2008, 総頁数241.

本田由紀(編著), 『若者の労働と生活世界』, 大月書店, 2007, 総頁数365.

<分担執筆>

本田由紀(単著), 「高校教育・大学教育のレリバ

ンス」, 谷岡一郎・仁田道夫・岩井紀子編『日本人の意識と行動』, 東京大学出版会, 2007, pp.211-223.

本田由紀(単著), 「若者と仕事をめぐる諸問題」, 岩永雅也・稲垣恭子編『新版 教育社会学』, 放送大学教育振興会, 2007, pp.159-173.

<雑誌論文>

本田由紀(単著), 「ポスト近代社会を生きる若者の『進路不安』」, 『教育』No.743, 教育科学研究会編集, 2007, pp.4-11.

本田由紀(単著), 「若年労働市場における二重の排除」, 『現代の社会病理』第22号, 2007, pp.23-35.

本田由紀(単著), 「今こそ専門高校の『復権』を」, 『産業と教育』No.662, 2007, pp.2-7.

本田由紀(単著), 「世代間格差を断ち切る『公教育』の再生を」, 『放送メディア研究』vol.5, 2007, 日本放送協会放送文化研究所, pp.81-87.

本田由紀(単著), 「家庭教育をめぐる格差と混乱」, 『社会政策学会誌』第19号, 2008, pp.41-57.

本田由紀(単著), 「格差社会における教育の役割」, 『世界の労働』第58巻第1号, 2008, 日本ILO協会, pp.30-35.

<その他の業績>

本田由紀(座談会), 「“溜め”のない世界に楔を打て!」, (湯浅誠・阿部真大・本田由紀), 『図書新聞』, 2007年8月18日号, 1-3面.

本田由紀(座談会), 「ハイパー“プロ文”時代がやって来た!」, (ECD・棚沢健・本田由紀), 『すばる』, 集英社, 2007年7月号, pp.148-165.

本田由紀(書評), 「『格差社会ニッポンで働くということ』熊沢誠著」, 『現代の理論』vol.13, 明石書店, 2007, pp.208-211.

本田由紀(書評), 「乾彰夫編著『不安定を生きる若者たち』」, 『日本労働研究雑誌』No.561, 日本労働研究機構, 2007, pp.121-124.

本田由紀(対談), 「若者はなぜ誤解されるのか?」, (後藤和智・本田由紀), 後藤和智著『「若者論」を疑え!』, 宝島社新書, 2008, pp.18-47.

本田由紀(学会発表), 「『子育て』をめぐる格差と混乱」, 社会政策学会第114回大会(東京大学), 共通論題「子育てをめぐる社会政策」, 2007.

本田由紀(パネリスト), 「脱企業社会—新しいライフスタイルを求めて」, (木下武男・斎藤貴男・本田由紀), NPO・POSSE, 2007.

大多和 直 樹 (助教)**<著書>**

大多和直樹 (共著), 「若者文化と学校空間—学校の遮蔽性と生徒集団の統合性はどうか変化したか」, 『若者文化をどう見るか?—日本社会の具体的変容の中に若者文化を定位する』(広田照幸氏編著) アドバンテージサーバー, 2008, pp.94-116, 総頁数261.

大多和直樹 (共著), 「進路選択と支援」(山口毅氏との共著) 『若者の労働と生活世界—彼らはどんな現実を生きているか』(本田由紀氏編著) 大月書店, 2007, pp.149-184 総頁数365.

大多和直樹 (編著), 『子どもとニューメディア』(北田暁大氏との編著), 日本図書センター, 2007, 総頁数396.

<雑誌論文>

大多和直樹 (共著) 「選択支援機関としての進路多様校における配分メカニズム—首都圏大都市A商業高校の進路カルテ分析—」(千葉勝吾氏との共著), 『教育社会学研究』第81巻, 2007, pp.67-87.

大多和直樹 (単著) 「トランジションとレリバンズ—<工業人育成>を中心とした工業高校の効用と課題」, 『月刊高校教育』2008年7月号, 学事出版, 2008, pp.53-57.

大多和直樹 (単著) 「eラーニングの高等教育市場への影響をどう考えるか (特集 遠隔教育の現在)」, 『カレッジマネジメント』No.148, リクルート, 2008, pp.12-15.

大多和直樹 (単著) 「学校における逸脱・非行メカニズム—維持と変容」, 『青少年問題』No.54 (夏季), 青少年問題研究会, 2007, pp.20-25.

<その他業績>

大多和直樹 (学会発表) 「工業高校の現代的役割とレリバンズに関する研究—即戦力ではなく, ものづくりへの情熱を育てる視点から」(樋田大二郎, シムチュンキャット, 堀健志氏との共同発表), 日本教育社会学学会第59回大会 (: 茨城大学), 2007.

大多和直樹 (学会発表) 「ロジックは教育効率か, 教育効果か—全国大学教員のIT 利用実態調査から—」(吉田文, 田口真奈氏との共同発表), 日本高等教育学会第10回大会 (名古屋大学), 2007

教育心理学コース**市川 伸 一 (教授)****<著書>**

市川伸一・鎗木良夫 (編著) 『教えて考えさせる授業 小学校—学力向上と理解深化をめざす指導プラン』図書文化社, 2007, 総頁数150.

<その他の業績>

市川伸一 「学力低下の現状とその解決策」, 『教職課程』(協同出版), Vol.33-4, 2007, pp.32-35.

市川伸一 「『確かな学力』の育成をどう図るか—習得と探究を促す新教育課程に向けて—」, 『中等教育資料』(ぎょうせい), No.851, 2007, pp.10-13.

市川伸一 「地域教育の現状と展開」, 『教職課程』(協同出版), Vol.33-6, 2007, pp.14-17.

市川伸一 「『PISA型学力』とは, どのような学力を指すのか?」, 『総合教育技術』(小学館, Vol.62-2, 2007, pp.68-71. (インタビュー記事)

市川伸一 「基礎・基本の定着と『確かな学力』の育成—教えて考えさせる授業—」, 『教職研修』(教育開発研究所), No.36-3, 2007, pp.26-29.

市川伸一 「全国学力調査をどう評価するか—診断力ある問題を出題し, 授業改善に活かせ」, 『季刊教育法』(エイデル研究所), No.155, 2007, Pp.16-21. (インタビュー記事)

南風原 朝 和 (教授)**<雑誌論文>**

南風原朝和 (単著), 「学力調査におけるテスト理論の活用—項目反応理論 (IRT)」 『指導と評価』第53巻11月号, 2007, pp.42-45.

<その他の業績>

南風原朝和 (指定討論), 「はかれるもの・はかれないもの—医療系における能力評価のあり方をめぐって」, 日本テスト学会第5回大会実行委員会企画シンポジウム (聖路加大学), 2007.

南風原朝和 (指定討論) 「文系学生に対する心理統計教育の実践」, 日本教育心理学会第49回大会自主シンポジウム (文教大学), 2007.

南風原朝和 (学会セミナー講演) 「調査・測定の統計的基礎」, 日本行動計量学会第11回春の合宿セミナー講演資料集, 2008, pp.1-11.

遠 藤 利 彦 (准教授)**<著書>**

遠藤利彦 (2007). 臨床心理学の基礎: 発達. 桑原

知子編, 朝倉心理学講座:臨床心理学 (pp.33-47). 朝倉書店.

遠藤利彦 (2007). 感情の機能を探る. 藤田和生編, 感情科学の展望 (pp.3-34). 京都大学学術出版会.

遠藤利彦 (2007). アタッチメント理論とその実証研究を俯瞰する. 数井みゆき・遠藤利彦編, アタッチメントと臨床領域 (pp.1-58). ミネルヴァ書房.

遠藤利彦・坂上裕子 (編著) (2007). はじめての質的研究:生涯発達. 東京図書.

<翻訳書>

遠藤利彦・谷口弘一・金政祐司・串崎真志監訳 (2008). 成人のアタッチメント:理論・研究・臨床. 北大路書房. (Rholes, W.S. & Simpson, J. A. Adult Attachment.)

遠藤利彦・北山修監訳 (2008). 愛着理論と精神分析. 誠信書房. (Fonagy, P. Attachment theory and Psychoanalysis).

<学術論文>

遠藤利彦 (2007). 語りにおける自己と他者, そして時間:アダルト・アタッチメント・インタビューから逆照射して見る心理学における語りの特質. 心理学評論, 49, 470-491.

遠藤利彦 (2007). 語りから“見え”を探る:知覚心理学における質的研究. 質的心理学研究, 6, 200-201.

遠藤利彦 (2007). アタッチメント理論の現在:特に臨床の問題との関わりにおいて. 乳幼児医学・心理学研究, 16, 13-26.

<一般雑誌・その他の論文>

遠藤利彦 (2007). 愛着理論の現在:無秩序・無方向型愛着を中心に. こころの科学, 134, 20-24.

遠藤利彦・伊藤匡 (2007). 自閉症児の発達を促す環境づくり:あえて巻き込まれることと巻き込まれないこと. 発達, 112, 77-88.

遠藤利彦 (2008). 解題:愛着理論と精神分析—対立から対話へ. 遠藤利彦・北山修監訳, 愛着理論と精神分析 (pp.266-288).

遠藤利彦 (2008). 解説:発達の予兆を読む:糸島プロジェクトの奇蹟. 大神英裕著, 発達障害の早期支援:研究と実践を紡ぐ新しい地域連携 (pp.159-166). ミネルヴァ書房.

<報告書>

遠藤利彦・北川恵・本島優子 (2007). 妊娠期における母親の子ども表象が生後1年目の母子相互作用

用および子どもの社会情緒的発達に及ぼす影響. 平成18年度児童関連サービス調査研究等事業報告書.

遠藤利彦 (2008). 日本の発達早期における特別支援教育の現状と課題:保育所・幼稚園への保育カウンセラー派遣の意義を探る. 京都大学教育学研究科編, 日中教育学系合同国際シンポジウム報告書 (pp.84-97).

<学会発表>

遠藤利彦 シンポジウム:関係性の中の発達を捉える:長い目と広い目 (指定討論). 日本心理学会第71回大会 (東洋大学). 2007年9月18~20日.

遠藤利彦 ワークショップ成人アタッチメント研究の最前線 (2) (指定討論). 日本心理学会第71回大会 (東洋大学). 2007年9月18~20日.

遠藤利彦 ワークショップ:異型を通して心の普遍を読む:AtypicalからTypicalへ (企画・司会). 日本心理学会第71回大会 (東洋大学). 2007年9月18~20日.

篠原郁子・遠藤利彦 ポスター:母親のmind-mindednessと18ヶ月児の内的状態への言及一心に関する発話の母親間差における背景を探る—. 日本心理学会第71回大会 (東洋大学). 2007年9月18~20日.

本島優子・遠藤利彦 ポスター:母親の子ども表象と母子相互作用との関連性. 日本心理学会第71回大会 (東洋大学). 2007年9月18~20日.

遠藤利彦 シンポジウム. 質的研究から見えるもの—子どもの育ちを支える視点— (指定討論). 日本発達心理学会中国地区シンポジウム. 2007年12月8日.

遠藤利彦 シンポジウム. 質的心理学では「事実」をどのように考えるのか (指定討論). 日本質的心理学会第4回大会 (奈良女子大学). 2008年9月29~30日.

遠藤利彦 シンポジウム. 身体にく「瑕疵」を持つということ:可視的変形の心理的意味を考える (司会・指定討論). 日本発達心理学会第19回大会 (追手門学院大学). 2008年3月19~21日.

遠藤利彦 シンポジウム. 発達の予兆を読み解く (企画・指定討論). 日本発達心理学会第19回大会 (追手門学院大学). 2008年3月19~21日.

本島優子・遠藤利彦 ポスター. 生後2か月における母親の乳児表情の知覚と生後18か月における乳児のアタッチメントの安定性との関連性:縦断研

究. 日本発達心理学会第19回大会 (追手門学院大学). 2008年3月19~21日.

江上園子・遠藤利彦・無藤隆 ポスター. 母親の日常的生活文脈における「母性愛」信奉傾向と精神的健康. 日本発達心理学会第19回大会 (追手門学院大学). 2008年3月19~21日.

篠原郁子・遠藤利彦 ポスター. 母親のmind-mindednessと2歳児の欲求理解の発達. 日本発達心理学会第19回大会 (追手門学院大学). 2008年3月19~21日.

石井佑可子・遠藤利彦 ポスター. 13情動経験における「メタ・ソーシャルスキル」の影響. 日本発達心理学会第19回大会 (追手門学院大学). 2008年3月19~21日.

<講演>

遠藤利彦 親子関係と子どもの社会情緒的発達. こどもみらい館共同機構研修会 (こどもみらい館). 2007年7月13日.

遠藤利彦 養育者の「錯覚」という視点から子どもの育ちを考える. 京都市保育士の会:ふたば会 (こどもみらい館). 2007年7月18日.

遠藤利彦 子育ての基本について考える. 京都カトリック親愛幼稚園保護者会 (親愛幼稚園). 2007年9月10日.

遠藤利彦 日本の発達早期における特別支援教育の現状と課題. 日中教育学系合同国際シンポジウム (京都大学). 2007年11月7日.

遠藤利彦 子育ての基本を見直す:錯覚ということばをキーワードに. 京都府幼稚園協会 (京都市アバンティホール). 2007年11月10日.

遠藤利彦 現代進化心理学から見るアタッチメント. 第3回うみかぜシンポジウム:人間らしい心はどこへ向かうべきなのか (滋賀県立大学). 2007年12月2日.

遠藤利彦 カウンセリング・マインドについて考える. 京都市私立幼稚園協会 (京都市こどもみらい館). 2008年2月27日.

遠藤利彦 愛着と子どもの社会情緒的発達. 日本医療保育学会東京地区研修会 (日本赤十字看護大学). 2008年3月4日.

臨床心理学コース

田中千穂子(教授)

<著書>

障碍の児のこころ—関係性のなかでの育ち—

ユビキタ・スタジオ2007年9月

<雑誌論文>

高機能広汎性発達障害の理解と支援に関する研究 (2) —序にかえて—東京大学大学院臨床心理学コース紀要第30集 2007年6月 pp139-140

主体的にいきる援助としてのオペレイセラピー 東京大学大学院臨床心理学コース紀要第30集 2007年6月 pp186-187

子どもの暴力への対応とは—関係性と発達の側面の視点から 2007年10月 pp2-10 児童心理臨時増刊867 金子書房

発達支援としての教育心理臨床アプローチ教育心理臨床パラダイム現代のエスプリ別冊 2008年1月 pp286-290

中釜洋子(准教授)

<専門誌への掲載論文>

中釜洋子(単著)「家族のための心理援助—12. 家族の心理援助の専門家になるということ」臨床心理学, vol.8, no.2. 2008.03., p.255-261

中釜洋子(単著)「家族のための心理援助—11. 親面接の進めかた」臨床心理学vol.8, no.1. 2008.01., p.87-93

中釜洋子(単著)「家族のための心理援助—10. カップル・カウンセリング」臨床心理学vol.7, no.6.2007.11., p.819-826金剛出版

中釜洋子(単著)「家族のための心理援助—9. 家族合同面接を終結する」臨床心理学vol.7, no.5.2007.9., p.669-675

中釜洋子(宮地尚子・中村正・田村毅・後藤雅博との共著)「ジェンダーと家族療法」家族療法研究 vol.24, no.2.2007.08.31., p.20-44

中釜洋子(単著)「家族のための心理援助—8. 家族合同面接における介入と仕切り直し」臨床心理学 vol.7, no.4.2007.07., p.519-525

中釜洋子(単著)「子育て支援の心理教育」日本家族心理学会編集家族心理学年報25家族支援の心理教育—その考え方と方法 金子書房 2007.05., p.34-45

中釜洋子(単著)「家族のための心理援助—7. 家族合同面接を展開する」臨床心理学vol.7, no.3.2007.05., p.383-389

<雑誌論文(大学・研究所等紀要)>

中釜洋子(単著)清田論文へのコメント 上智大学臨床心理学研究 2007年 vol.30.2008.01.,

p.138-140

中釜洋子（単著）「別れの春におもうこと」臨床心理学コース紀要 第30集 東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻臨床心理学コース 2007.07., p.188-189

<分担執筆ならび分担翻訳>

中釜洋子（分担執筆）「家族療法的視点」村山正治編『学校臨床のヒント』金剛出版 261 2007.08., p.253-255

中釜洋子（単著）「家族をつなぐ女性—家族の発達という視点から」園田雅代・平木典子・下山晴彦編著『女性の発達臨床心理学』金剛出版2007.09., p.62-73/総頁数201

中釜洋子（単著）「第5章 カウンセリング 総論 臨床心理士との連携」麻生武志編『女性総合外来基礎と実践』文光堂 2007.11., p.390-392

<その他の業績>

中釜洋子（金生由紀子・笠原麻里・細田のぞみ・穴倉久里江との共著）「〈座談会〉子どものチックとこだわり」ころのりんしょうa・la・carte vol.27, no.1.2008.03., p.61-73 星和書店

中釜洋子（単著）「思春期家族を生きる～親たちに送る応援歌とSOSチェックリスト」第2回フォーラム『思春期家族を考える』学習院女子中等科・女子高等科/戸山会2008.03., p.14-39

中釜洋子（単著）書評『心理療法のひろがり』家族療法研究 vol.24, no.2, 2007.12., p262-263

中釜洋子（単著）「教育支援の家族機能の活性化をもとめて」藤原勝紀編『現代のエスプリ別冊 教育心理臨床パラダイム』至文堂 2008.01., p.188-192/総頁数310.

中釜洋子（単著）「ジェンダー・センシティブティを高めるために」家族療法研究vol.24, no.2, 2007.08., p.16-19

中釜洋子（単著）「カップル・セラピーに見るいまどきの家族」心理学ワールド38号 特集・21世紀の家族（社）日本心理学会 2007.07., p.9-12

中釜洋子（単著）「東大教師が新入生にすすめる本」『UP』誌 vol.36, no.4 東京大学出版会 2007.04., p.28-30

能智正博（准教授）

<著書>

秋田喜代美・能智正博（監修），（高橋都・会田薫子編）『はじめての質的研究法 医療・看護編』，東

京図書，2007，総頁数210.

能智正博・川野健治（編著），『はじめての質的研究法 臨床・社会編』，2007，東京図書，2007，総頁数294.

能智正博（分担），「質的研究と臨床・社会心理学」，（能智正博・川野健治編）『はじめての質的研究法 臨床・社会編』，東京図書，2007，pp.3-38.

秋田喜代美・能智正博（監修），（遠藤利彦・坂上裕子編）『はじめての質的研究法 生涯発達編』，東京図書，2007，総頁数345.

秋田喜代美・能智正博（監修），（秋田喜代美・藤江康彦編）『はじめての質的研究法 教育・学習編』，東京図書，2007，総頁数391.

能智正博（分担），「論文の書き方」，（やまだようこ編）『質的心理学の方法—語りをきく』，新曜社，2008，pp.38-51.

能智正博（分担），「質的心理学の教え方と学び方」，（やまだようこ編）『質的心理学の方法—語りをきく』，新曜社，2007，pp.192-204.

下山晴彦・能智正博（編著），『心理学の実践的研究法を学ぶ』，新曜社，2008，総頁数351.

能智正博（分担），「よい研究とはどういうものか—研究の評価」，（下山晴彦・能智正博編）『心理学の実践的研究法を学ぶ』，新曜社，2008，pp.17-30.

能智正博（分担），「質的分析法」，（下山晴彦・能智正博編）『心理学の実践的研究法を学ぶ』，新曜社，2008，pp. 225-240.

<雑誌論文>

能智正博（単著），「質的研究と当事者理解」，『家裁調査官研究紀要』，第7号，2008，pp. 1-14.

<その他の業績>

尾見康博・伊藤哲司・坂上裕子・サトウタツヤ・能智正博（学会発表/指定討論），「質的研究における表現の多様化と尖鋭化の可能性」，日本質的心理学会第4回大会，2007，奈良女子大学.

能智正博・川野健治・山本登志哉・作道信介・遠藤利彦（学会発表/企画・司会），「質的研究はどのように「事実」を考えるのか」，日本質的心理学会第4回大会，2007，奈良女子大学.

能智正博（講演），「ライフストーリーから見えてくるもの—質的研究の実践をもとに」，地域における世代間交流回想法のリーダー養成ワークショップ第3回，2007，東京.

能智正博（講演），「ナラティブを分析する視点」，

日本音楽療法懇話会 第247回, 2007, 東京.
 能智正博他(分担翻訳), ポーモン, J. G. 他編 [岩田誠ら監訳]『神経心理学事典』, 2007, 医学書院.
 能智正博(書評), 「臨床実践のための質的研究法入門(J.マクレオッド著, 金剛出版)」, 『精神療法』, 第33号, 2007, 654.
 能智正博(エッセイ), 「質的研究論文への門戸を広げる条件」, 『日本発達心理学会ニューズレター』, 第52号, 2007, pp. 2-3.
 能智正博(エッセイ), 「『運命愛』と『障害受容』」, 『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』, 第31号, 2008, pp. 204-205.

教育創発学コース

秋田 喜代美(教授)

<著書・(編著書)・(分担執筆)>

秋田喜代美(編著)『幼児期に育つ科学する心』(小泉英明, 山田敏之との共編)小学館 pp.198.2007.5
 秋田喜代美(編著)『事例で学ぶ初めての質的研究法 教育・学習編』(藤江康彦との共編)東京図書 pp391. 2007.7
 秋田喜代美(編著)『子どもの理解と保育・教育相談』(小田豊との共編)みらい pp.186 2008.3
 Akita, K. Stage internes: fluctuations et perspectives. In C.L. Alvares et M.Sato (eds.) Enseignants et écoles au Japon. Paris: Maisonneuve & Larose. 59-74. 2007.6.
 秋田喜代美「学ぶ意欲を育てる教師の役割」中谷素之(編)『学ぶ意欲を育てる人間関係づくり: 動機づけの教育心理学』金子書房 84-85. 2007.5
 秋田喜代美「絵本をめぐるコミュニケーション」[本好きの子どもはどのように育つか]内田伸子(編)『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房 178-181. 2008.1
 秋田喜代美「保育の未来: 暮らしと遊びを創りだす保育: ムリ・ムダ・ムラへの志向性」無藤隆(編)『The 保育: 101の提言』p8-11.フレール館 2008.1
 秋田喜代美「教育の質的研究と教師の学び」多田俊文(編)『教育の方法と技術 三訂版』学芸図書株式会社 185-187. 2008.1

<雑誌論文・(学術論文)・(一般雑誌論文)>

Akita, K., Prakash, P., Bhanu, P. & Panah, M.A. Drawing and emergent writing in young children. *Psychological Studies*, 52(3), 216-222. 2007. 12
 Ashida, H., Kadota, R., Akita, K., Suzuki, M., Noguchi,

T., Oda, Y., Fried, L. & Konig, A. Comparative study of perceptions of early childhood education among Japanese, German, and US Preschool Teachers Using Multi-Vocal Ethnography Method. *International Journal of Early Childhood Education*, 13(2), 79-96. 2008.1

秋田喜代美(単著)「遊びと発達(総説)」『保育学研究』, 45(1), 8-12 2007.8
 秋田喜代美(単著)「教室談話を通じたメタ認知機能の育成」『心理学評論』, 50(3), 285-296. 2008.1
 秋田喜代美(共著)「多声的エスノグラフィ法を用いた日独保育者の保育観の比較検討—語頻度に注目した実践知の明示化を通して—」(芦田宏・鈴木正敏・門田理世・野口隆子・小田豊との共著)『教育方法学研究』, 32, 107-117. 2007.6
 秋田喜代美(共著)「乳幼児の保育研究における研究倫理の問題」(佐々木保行との共著)『保育学研究』, 45 (1), 74-78. 2007.8
 秋田喜代美(共著)「教師の語りに用いられる語のイメージに関する研究—幼稚園・小学校比較による分析—」(野口隆子・鈴木正敏・門田理世・芦田宏・小田豊との共著)『教育心理学研究』, 55 (4), 457-468. 2008. 1
 秋田喜代美(共著)「保育の質研究の展望と課題」(箕輪潤子・高櫻綾子との共著)『東京大学大学院教育学研究科紀要』, 47, 289-305. 2008.3
 秋田喜代美「理科における言葉の育成」『教室の窓』p4-5.2007.4
 秋田喜代美「遊びで育つ, 子どもの学ぶ力」『保育とカリキュラム』56(6), 31-35. 2007. 4
 秋田喜代美「学ぶ教師深まる専門性」『幼稚園じほう』35(4), 5-11. 2007. 6
 秋田喜代美「子どもたちに必要な「読む力・書く力」とは何か」『児童心理』863, p2-10.2007.7.
 秋田喜代美「「楽しいだけ」の授業の再吟味」『教育研究』1269号14-17. 2007.10.
 秋田喜代美「丁寧な仕事」『子どもの本棚』P1-2. 2007.10.
 秋田喜代美「読書するとは あらたな知の旅立ち」『教育と医学』655, 4-11. 2007. 12
 秋田喜代美「指導要録記入の道筋」『ラボム』53 (11), 22-25. 2007. 12
 <その他の業績・(学会発表等)>
 Akita, K. & Tsuneyoshi, R. A Comparative study of Japanese teachers' pedagogical reasoning and beliefs

- on Singaporean, Chinese and Japanese lessons. CRPP conference: Redesigning pedagogy: Culture, knowledge and understanding.195-196. Singapore, National Institute of Education, 2007.5.30
- Akita, K. How Japanese teachers learn from lesson study?: An analysis of lesson study discourse. CRPP conference : Redesigning pedagogy: Culture, knowledge and understanding.212. Singapore, National Institute of Education, 2007. 5. 29
- Akita, K. & Oda.Y. Collaboration and transformation of activity systems of kindergarten-primary school: How teachers talk about boundary-crossing between two cultural systems. Prague: 17th European Early Childhood Education Research Association annual conferences. p.161-162. 2007.8.31
- Akita, K. How lesson study discourse changes: Making an autonomous professional learning culture Expert Panel in World Association of Lesson Study, Hong Kong Institute of Education 2007.11 invited
- Akita, K. Changing the learning activity system in schools for professional development international conference Education of knowledge based society in East Asian the University of Tokyo. 2007.12.17
- 秋田喜代美「保育実践の倫理と保育研究の倫理」日本保育学会第60回大会学会企画シンポジウム「保育研究における倫理の問題を考える」話題提供者 日本保育学会第60回大会発表論文集p105. 2007. 5.19.
- 秋田喜代美「遊びと学びの語り口の差異に埋め込まれた幼児期にふさわしい教育」日本保育学会第60回準備委員会企画シンポジウム「保育・教育の指導内容、方法を通して幼児期と児童期の接続を考える—文化に埋め込まれた「ふさわしい遊びや活動」とは?—」話題提供者 日本保育学会第60回大会発表論文集p115 2007. 5. 20
- 芦田宏・鈴木正敏・秋田喜代美「保育研究に用いるビデオ編集の類型とその効果」日本保育学会第60回大会発表論文集 784-785. 2007. 5.19
- 秋田喜代美・白水始「教授・学習過程における発話データの分析」準備委員会企画セミナー日本教育心理学会総会発表論文集 2007. 9.17
- 秋田喜代美「自らの価値観にもとづいて考える力を育てる議論教育の方法」シンポジウム指定討論 2007. 9. 15
- 秋田喜代美「教師—子どもの人間関係と動機づけ—社会的文脈における学業達成（2）—」シンポジウム指定討論 2007. 9. 16
- 秋田喜代美「カリキュラムの教育心理学-その可能性と課題」シンポジウム指定討論 2007. 9. 17.
- 秋田喜代美「読書コミュニティのデザイン」日本心理学会準備委員会企画シンポジウム 日本心理学会大会発表論文集 2007. 9. 18
- <新聞>
- 秋田喜代美「新保育所保育指針 子どもの発達と保育内容（上）」日本教育新聞 2008.3.17.
- 秋田喜代美「新保育所保育指針 子どもの発達と保育内容（下）」日本教育新聞 2008.3.24
- <雑誌連載>
- 秋田喜代美「専門家としての保育者養成のあり方を考える」『週刊教育プロ』, 37(15), 29. 2007.4
- 秋田喜代美「幼稚園教諭の4つの専門性」『週刊教育プロ』37(19), 31. 2007.5
- 秋田喜代美「保育実践と研究のための倫理教育」『週刊教育プロ』37(23), 29. 2007.6
- 秋田喜代美「保育における経験の質」『週刊教育プロ』37(27), 33. 2007.7
- 秋田喜代美「保育における協働経験を培う」『週刊教育プロ』37(31), 49. 2007.8.
- 秋田喜代美「幼児期における“聴く”指導とは」『週刊教育プロ』37(35), 29. 2007.9.
- 秋田喜代美「「領域」という概念」『週刊教育プロ』37(39), 31.2007.10
- 秋田喜代美「集団での会話活動を楽しむ」『週刊教育プロ』37(43), 35.2007.11.
- 秋田喜代美「保育の質の評価をめぐる国際的議論」『週刊教育プロ』37(47), 33. 2007.12
- 秋田喜代美「創造性と考えを共有しあう遊び」『週刊教育プロ』38(5), 31.2008.2
- 秋田喜代美「発達の連続性を考えていくために」『週刊教育プロ』, 38(9), 30.2008.3
- 岡田 猛(教授)
- 岡田猛・横地早和子・難波久美子・石橋健太郎・植田一博(教授)(2007) 現代美術の創作における「ずらし」のプロセスと創作ビジョン *認知科学*, 14, 303-321.
- 横地早和子・岡田猛(2007). 現代芸術家の創造的熟達の過程 *認知科学*, 14, 437-454.
- Okada, T., Yokochi, S., Ishibashi, K., Namba, K., & Ueda, K. (2007). Analogical modification in the

creation of contemporary art. In Schwering, A., Krumnack, U., Kühnberger, K., & Gust, H., (Eds.) *Analogies: Integrating multiple cognitive abilities. Publication series of the Institute of Cognitive Science, University of Osnabrück*, Vol. 5. (The Twenty-ninth Annual Meeting of the Cognitive Science Society, 2007, Tutorial Workshop on Analogy)

金森 修 (教授)

<分担執筆>

- 1) 「エピステモロジー」
『哲学の歴史』第11巻, 中央公論新社, 2007年4月10日, pp.531-564.
- 2) 「人とヒト——パーソン論の視座を通して」
野家啓一編『ヒトと人のあいだ』, ヒトの科学第6巻, 岩波書店, 2007年6月27日, pp. 105-122.
附録: 同書「座談: 動物と機械のあいだ」, pp.175-225.

<論文>

- 1) “Bios and his Self-armor”
Journal of Philosophy and Ethics in Health Care and Medicine, No.2, July 2007, pp.26-43.
- 2) 「『創造的進化』と〈生命の形而上学〉」
『哲学と現代』第23号, 2007年12月31日, pp.70-87.

<参考論文・エッセイ他>

- 1) 「産業社会とは異なる規範を示す空間に」
『科学』vol.77, no. 5, May 2007, 2007年5月1日, pp.521-522.
- 2) 「知識社会を支える基盤組織としての自覚を」
『淡青評論』No.1359, 東京大学広報委員会, 2007年6月13日
- 3) 「本当の『公益』の在り処を探る」
公開自主講座『宇井純を学ぶ』2007年6月23日, pp.20-21.
- 4) 「mad engineer ?」
日本ジュール・ヴェルヌ研究会『Courier du Czar』no.5, 26 aout 2007
- 5) 「ピオスの本源的装甲」
『生命倫理』Vol.17, No.1, 2007年9月20日, pp.32-37.
- 6) 「蟬と人間」
『鉄門だより』第639号, 2007年12月号, 12月10日発行, p.2.
- 7) “Bios et Bioethique”,

“Rationalite Scientifique et Praxeologie Orientale”, “ ‘ Science Wars’ et ses Suites au Japon ”, “Gouvernement Culturel de ‘Design’ Genetique”

『フランス科学文化論の歴史的展開及び現代的意義に関する思想史的・哲学的包括的研究』(科学研究費研究成果報告書: 研究代表者 香川知晶), 2008年3月, pp. 59-67, 107-114, 115-121, 122-130.

- 8) 「思想の100年をたどる(4)」座談会: 荻野美穂・金森修・杉田敦・吉見俊哉
『思想』第1008号, 2008年4号, 2008年4月5日, pp.155-201.
- 9) 「ミシェル・セール混合体の哲学」
鷺田清一編『哲学の歴史』第12巻, 中央公論社, 2008年4月25日, pp.740-744.
- 10) 「近未来社会の中の理科教育」
『「倫理的観点に立った日本の教育の問題点の解明及び求められる基本戦略の研究」について』, 財団法人二十一世紀文化学術財団, 加藤研究会報告書, 2008年6月, 第9章, pp.108-123.
- 11) 「ホモ・ジェネティクスへの文化的随行」
上田昌文・渡辺麻衣子編『エンハンスメント論争』, 社会評論社, 2008年7月31日, 第Ⅱ部第4章, pp.200-217.

<書評>

- 1) 「深い学識に裏打ちされた論述」
『週刊読書人』第2691号, 2007年6月8日
- 2) 「生物医学的言説空間の巧みな脱臼」
『図書新聞』第2827号, 2007年6月30日
- 3) 「2007年上半年三冊」
『週刊読書人』第2698号, 2007年7月27日
- 4) 「2007年上半年読書アンケート」
『図書新聞』第2831号, 2007年7月28日
- 5) 「複雑な『その後』の人生に光あてる」
『日本経済新聞』2007年8月26日
- 6) 「香川知晶『死ぬ権利』書評」
『Revue de Philosophie Francaise』第12号, 2007年8月31日, pp.169-172.
- 7) 「生命という概念を軸にして文化の諸相を切り取る」
『図書新聞』第2839号, 2007年9月29日
- 8) 「優れた啓蒙家, 電気の歴史説く」
『日本経済新聞』2007年10月7日
- 9) 「現代文明に対する異議申し立ての可能性」
『図書新聞』第2846号, 2007年11月17日

- 10) 「アフォーダンスを倫理学に適用」
『週刊読書人』第2715号, 2007年11月30日
- 11) 「2007年下半年読書アンケート」
『図書新聞』第2851号, 2007年12月22日
- 12) 「2007年読書アンケート」
『みすず』第557号, 2008年2月1日, pp.4-5.
- 13) 「いかした言葉の拡散過程追う」
『日本経済新聞』2008年3月23日
- 14) 「よくまとまった論敵が並ぶ」
『週刊読書人』第2743号, 2008年6月20日
- 15) 「2008年上半年三冊」
『週刊読書人』第2748号, 2008年7月25日
- 16) 「2008年上半年読書アンケート」
『図書新聞』第2880号, 2008年8月2日
- <学会発表・講演等>
- 1) “Evolution Creatrice et Metaphysique de la vie”
Ateliers euro-japonais sur « L’évolution creatrice »
de Bergson, Universite de Toulouse II Le Mirail.
Maison de la Recherche. Salle des Actes, le 19 avril
2007. トゥールーズ, 2007年4月19日
- 2) 『『創造的進化』と生命の形而上学』
『名古屋哲学研究会』, 名古屋市立大学, 2007年5
月12日
- 3) “Fixation de l’instantane et de la forme”
ベルクソン『創造的進化』刊行百周年記念国際シ
ンポジウム『生の哲学の今』法政大学, 2007年10
月17日講演 法政大学, 2007年10月17日, 京都大
学10月20日司会
- 4) 「身体哲学と倫理」
サイエンスアゴラ2007『サイボーグに未来はある
か?』, 東京国際交流館メディアホール, 2007
年11月25日
- 5) 「エンハンスメントの哲学」
国際公開シンポジウム『人間改造のエシックス
ブレインマシンインターフェースの未来』, 京大
大学, 2008年1月14日
- 6) 「虚構の『近代』」: ブリュノ・ラトゥールとの
対談
エスパス・イマージュ, 日仏会館, 2008年6月13日
- 7) 「三木の自然学と自然哲学」
『第17回三木成夫記念シンポジウム: 発生と進
化』, 順天堂大学, 2008年7月23日
- 8) 「下村寅太郎の機械観」, Etre vers la vie,
Colloque Euro-japonais, Cerisy-la-Salle, 2008年8月
23日~30日

生涯学習基盤経営コース

根本 彰 (教授)

<著書>

根本彰 (単著) 「図書館」加藤友康責任編集『歴史
学事典 第14巻 ものとわざ』弘文堂 2007.06

<雑誌論文>

根本彰 (単著), 「デジタル情報空間における書誌コ
ントロール論の位相」『情報の科学と技術』Vol.
57, No.5, 2007. p.220-225.

根本彰 (単著), 「LIPER提言補論: 高山正也氏の批
判に答える」『図書館雑誌』Vol.101, No.6, 2007,
p.388-391.

根本彰 (単著), 「学校教育と図書館の關係に寄せ
て一物語からの脱却」『月刊国語教育』Vol.27,
No.5, July 2007, p.12-15.

根本彰 (単著), 「地域において展開する図書館サー
ビス: 続・貸出しサービス論批判」『図書館界』
Vo.59, No.4, 2007, p.244-252.

根本彰 (単著), 「21世紀の国立国会図書館: 二つの
機能を評価する」『情報の科学と技術』Vol. 57,
No.11, 2007. p.512-518.

根本彰 (単著), 「40年の空隙を埋める—1968年省令
改正と今」『日本図書館協会図書館学教育部会会
報』81号2007年11月p.11-13.

根本彰 (単著), 「『司書講習等の改善に関すること
について(報告)』(1967)の解説」『日本図書館
情報学会誌』Vol.53, No.3, 2007. p.172-182.

根本彰 (単著), 「学校図書館問題への一つの視点」
『学校図書館』No.687, 2008. p.16-17.

根本彰 (単著), 「図書館員養成とポストLIPER報告」
『図書館雑誌』Vol.101, No.11, 2007, p.741-743.

<その他の業績>

根本彰 (新聞記事), 「教育の核, 学校図書館: 「発
展的学び」支える」『静岡新聞』2007年6月25日

根本彰 (講演), “Embracing Books: Japanese
Librarianship during the Allied Powers’ Occupation,
1945-1952”, American Library Association - Library
History Roundtable. Edward G. Holley Memorial
Lecture, Sunday, 24 June 2007.

根本彰 (講演), 「『これからの図書館』と司書養
成・研修」『第93回全国図書館大会東京大会記録』
p.83-86.

根本彰 (講演), 「司書養成の歴史的課題を確認する」
『第93回全国図書館大会東京大会要綱』2007年10
月 p.91-94.

辻慶太, 三浦太郎, 根本彰 (学会発表), 「図書館職員の職に対する意識調査」『第55回日本図書館情報学会研究大会要綱』2007年10月 日本図書館情報学会 p.5-8.

根本彰 (講演), 「図書館情報専門職のあり方とその養成をめぐる」『日本社会教育学会紀要』No.44, 2008, p.137-139.

根本彰 (講演), 「コメント」平成19年度書誌調整連絡会議記録集 (2007年11月16日) 国立国会図書館書誌部 2008, p.41-47.

根本彰 (講演), 「LIPER2図書館情報学検定試験 (2007年準備版) の結果分析」『2008年日本図書館情報学会春季研究集会発表要綱』2008 p.111-114.

牧野 篤 (教授)

<論文 (日本語)>

牧野篤 (単著), 「東アジアと日本の少子高齢化の進展と課題」, 『産まないという選択 - 東アジア少子高齢社会研究 I - 少子化と民衆意識 - 日本語論文集』 (科学研究費補助金研究 (基盤研究B) 「東アジアの少子高齢化と民衆の生育意識に関する教育学的研究」第1回コロキウム報告日本語版), 2007, pp.1-17

牧野篤 (単著), 「女性の生育意識に関する若干の考察」, 『産まないという選択 - 東アジア少子高齢社会研究 I - 少子化と民衆意識 - 日本語論文集』 (科学研究費補助金研究 (基盤研究B) 「東アジアの少子高齢化と民衆の生育意識に関する教育学的研究」第1回コロキウム報告日本語版), 2007, pp.59-70

牧野篤 (単著), 「少子高齢社会と社会教育・生涯学習 - 東アジア諸国の少子高齢化事情と高齢社会の学習コミュニティ」, 岐阜大学『平成19年度社会教育主事講習テキスト』, 2007, pp.179-209 (本稿は「少子高齢社会アジアと生涯学習 - 東アジア諸国の少子高齢化事情と高齢社会の学習コミュニティ」, 『少子高齢社会アジアと生涯学習: 日本 - 台湾 生涯学習・高齢者教育ミニシンポジウム発表報告集』, 2005年4月を加筆修正したもの)

牧野篤 (単著), 「中国と台湾の社会変動とコミュニティ教育」, 大桃俊行・上杉孝實・井ノ口淳三・植田健男編『教育改革の国際比較』, ミネルヴァ書房, 2007, pp.289-309

牧野篤 (単著), 「おとなが大学で学ぶということ -

知の社会循環をつくり出す - (名古屋大学大学院教育発達科学研究科「知の社会還元」の試み)」, 名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属生涯学習・キャリア教育研究センター『モノグラフ・調査研究報告書』No.6, 2008, pp.1-23

牧野篤 (単著), 「競争的環境で大学生はどうなっているのか」, 日本科学者会議『日本の科学者』vol.43, 2008, pp.10-15

牧野篤 (単著), 「東アジア民衆の語る「歴史」に何を聴き取るのか - 民衆の相互理解と相互受容の可能性について -」, 名古屋大学大学院教育発達科学研究科社会・生涯教育学研究室『社会教育研究年報』, 第22号, 2008, pp.1-15

<論文 (中国語)>

牧野篤 (単著), 「日本的老人大学」, 黄富順主編『各国高齢教育』, 五南図書出版社, 2007, pp.445-477

牧野篤 (単著), 「日本少子高齢化的変遷和現状」, 臨沂師範学院『臨沂師範学院学報』第29卷第4期, 2007, pp.7-11

<その他の業績>

牧野篤 (報告書) (編集), 『産まないという選択 - 東アジア少子高齢社会研究 I - 少子化と民衆意識 - 日本語論文集』 (科学研究費補助金研究 (基盤研究B) 「東アジアの少子高齢化と民衆の生育意識に関する教育学的研究」第1回コロキウム報告日本語版), 2007, pp.249

牧野篤 (報告書) (編集), 『産まないという選択 - 東アジア少子高齢社会研究 I - 少子化と民衆意識 - 各国語版概要集』 (科学研究費補助金研究 (基盤研究B) 「東アジアの少子高齢化と民衆の生育意識に関する教育学的研究」第1回コロキウム報告各国語版), 2007, pp.376

牧野篤 (随想), 「桃花流水杳然去, 别有天地非人間 - 小川利夫先生を偲ぶ -」, 名古屋大学大学院教育発達科学研究科社会・生涯教育学研究室『社会教育研究年報』, 第22号, 2008, pp.35-39 (右開きページ数)

牧野篤 (書評), 「[書評] 鮑威著『中国の民営高等教育機関 - 社会ニーズとの対応 -』」, 日本比較教育学会『比較教育学研究』第35号, 2007, pp.191-193

牧野篤 (書評), 「大塚豊『中国大学入試研究 - 変貌する国家の人材選抜 -』を読む」, IDE大学協会『IDE現代の大学教育』No.498・2-3月号, 2008, pp.79-80

牧野篤 (報告), 「〈ローカルな知〉に普遍性はあるか?—世界の中のローカルな知の学習」, 日本社会教育学会『学会通信』No.185, 2007, p.3

牧野篤 (報告), 「二つの異端の立場から—第50回大会シンポジウム「戦後教育史の可能性を探る」指定討論発言—」, 教育史学会『日本の教育史学』第50集, 2007, pp.179-180

牧野篤 (報告), 「分権時代の住民自治と自治体行政の変容, そして可能性 (第53回大会プロジェクト研究 (1)「NPOと社会教育」/分権時代の地域づくりにおける社会教育行政とNPOの役割 報告 I)」, 日本社会教育学会『日本社会教育学会紀要』No.43, 2007, pp.117-118

牧野篤 (発表), 「「近代化」から「語らい」へ—理性的な感情の動員から身体的な相互性の創出へ—」, 日本教育学会特別課題研究委員会「アジア認識研究会」(東京大学), 2007

牧野篤 (発表), 「日本の老人大学與高等教育経営の模式」, 中国高等教育学会管理分会・英国劍橋研究会・中央教育科学研究所・臨沂師範学院「第二届大学管理國際論壇」(臨沂師範学院), 2007

影 浦 峽 (准教授)

<雑誌論文 (査読有)>

鈴木崇史・影浦峽. 「総理大臣国会演説における基本的文体特徴量の探索的分析」『計量国語学』第26巻第4号, 2008, pp. 113-122.

Kyung-Soon Lee and Kyo Kageura. "Virtual relevant documents in text categorization with support vector machines," *Information Processing and Management*, 43(4), 2007, pp. 902-913.

<国際会議論文 (査読有)>

Takeshi Abekawa and Kyo Kageura. "What prompts translators to modify draft translations? An analysis of basic modification patterns for use in the automatic notification of awkwardly translated text," *Proceedings of the 3rd International Joint Conference on Natural Language Processing (IJCNLP 2008)*, January 2008, pp. 241-248.

Kyo Kageura, Takeshi Abekawa and Satoshi Sekine. "QRselect: A user-driven system for collecting translation document pairs from the web," *Proceedings of the 10th International Conference on Asian Digital Libraries (ICADL 2007)*, December 2007. pp.

131-140.

Youcef Bey, Kyo Kageura, and Christian Boitet. "BEYTrans: A free online collaborative Wiki-based CAT environment dedicated for online translation," *Proceedings of the 21st Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation (PACLIC 21)*, November 2007, pp. 87-95.

Takafumi Suzuki and Kyo Kageura. "Political text analysis using lexical diversity of nouns: Case study of microscopic characterization of texts," *Proceedings of the 21st Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation (PACLIC 21)*, November 2007, pp. 459-470.

Kyo Kageura and Takeshi Abekawa. "Modelling and exploring the network structure of terminology using the Potts spin glass model," *Proceedings of the 10th Conference on the Pacific Association for Computational Linguistics (PACLING 2007)*, September 2007, pp. 236-245.

Koichi Takeuchi, Takashi Kanehira, Kazuki Hilao, Takeshi Abekawa and Kyo Kageura. "Flexible automatic look-up of English idiom entries in dictionaries," *Machine Translation Summit XI Proceedings*, September 2007, pp. 451-458.

Emanuel Morin, Beatrice Daille, Koichi Takeuchi and Kyo Kageura. "Bilingual terminology mining - using brain, not brawn comparable corpora," *Proceedings of the 45th Annual Meeting of the Association for Computational Linguistics*, June 2007. pp. 664-671.

Takeshi Abekawa and Kyo Kageura. "A translation aid system with a stratified lookup interface," *Proceedings of the 45th Annual Meeting of the Association for Computational Linguistics Demos and Poster Sessions*, June 2007, p. 5-8.

Takeshi Abekawa and Kyo Kageura. "QRedit: An integrated editor system to support online volunteer translators," *Digital Humanities 2007*, June 2007. p. 3-5.

<雑誌記事>

影浦峽. 「認知症—奇妙な組み立てく1> (専門語ワンダーランド3)」『言語』第37巻3号, 2008, p. 67.

影浦峽. 「+ (たす) —1 + 1 = 日本語? 0 + 日本語 ≠ 日本語? (専門語ワンダーランド2)」『言語』第37巻2号, 2008, p.97.

影浦峽. 「菌類ときのこー日常の中の専門用語（専門語ワンダーランド1）」『言語』第37巻1号, 2008, p. 89.

影浦峽. 「翻訳と意思決定」『情報管理』第50巻12号, 2008, p. 845-847.

影浦峽. 「情報と信頼性」『情報管理』第50巻8号, 2007, pp. 522-524.

影浦峽. 「言葉とコミュニケーション」『情報管理』第50巻4号, 2007, p. 222-224.

影浦峽・阿辺川武. 「翻訳者を支援するオンライン多言語レファレンス・ツールの構築（椎茸プロジェクト）について」AAMT Journal, 第40号, 2007, pp.23-27.

影浦峽. 「ソーシャル先生の声を聴く『ソーシャル一般言語学講義』が生まれるとき」UP, 第415号, 2007, pp.20-24.

<招待講演>

影浦峽. 「言葉を学び、異文化に接する？ 言語教育の課題と小学校英語教育の陥穽」日本総合学習学会 2007 年度年会, November 2007.

Kyo Kageura. "Terminological lexicons and terms in context: The translator's perspective," 7eme Conference: Terminologie et Intelligence Artificielle. Invited Talk, October 2007. (Dieng-Kuntz, R. and Enguehard, C. (eds.) 7e Conference Terminologie et Intelligence Artificielle. Grenoble: Presses universitaires de Grenoble, pp. 1-10, 2007.

<その他の業績>

蛭浜康雄・金平昂・平尾一樹・竹内孔一・阿辺川武・影浦峽. 「WordNetと同音異義語を利用した異形イディオム検索」『言語処理学会第14回年次大会論文集』March 2008, pp. 1045-1048.

阿辺川武・影浦峽. 「機械翻訳を利用したぎこちない翻訳文の検出への試み」『言語処理学会第14回年次大会論文集』March 2008, pp.325-328.

阿辺川武・影浦峽. 「下訳から修正訳への訳文修正要因の分析」『言語処理学会第14回年次大会論文集』March 2008, pp. 253-256.

浅利俊介・竹内孔一・阿辺川武・影浦峽. 「Web上の既訳文書を対象とした段落アラインメント」『言語処理学会第14回年次大会論文集』March 2008, pp. 337-340.

鈴木崇史・影浦峽. 「ランダムフォレストを用いた政治テキストの社会言語学的分析のための著者固有表現抽出」『言語処理学会第14回年次大会論文

集』March 2008, pp. 817-820.

身体教育学コース

衛 藤 隆 (教授)

<著書・分担執筆>

「消化器疾患」『医師、看護職のための乳幼児保健活動マニュアル—地域、保育所、幼稚園の子どもの健康を目指して— 第1版』高野陽, 中原俊隆編, 文光堂, pp.436-438, 2007.

「予防接種」『子育て支援における保健相談マニュアル 初版』田中哲郎監修, 日本小児医事出版社, pp.62-71, 2007.

「学校医の役割と現状」『学校における運動器検診ハンドブック—発育期のスポーツ傷害の予防』武藤芳照, 柏口新二, 内尾祐司編, 南江堂, pp. 49-51, 2007.

<論文>

「健康教育の最近の動向—海外で進む健康促進学校の理念と実践」『日本医師会雑誌』136 (4) : 35-38, 2007.

「子どもの睡眠はいかにあるべきか」『教育と医学』55 (8) (通巻650号) : 784-791, 2007.

「子どもの近見視力と視行動—幼児の場合—」高橋ひとみと共著『桃山学院大学人間科学』34 : 1-22, 2007.

「巻頭論文『子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について』の審議をふり返って」『教育委員会月報』, 平成20年3月号, 702 : 2-6, 2008.

<学会発表>

「幼児の近見視力検査の方法と結果」高橋ひとみらと共同発表, 第32回日本小児眼科学会, 2007.6.15-16, 名古屋市

「幼児の近見視力検査と視行動の関連」川端秀仁らと共同発表, 第32回日本小児眼科学会, 2007.6.15-16, 名古屋市

「5歳児の近見視力について(その1)」高橋ひとみらと共同発表, 第16回日本健康教育学会, 2007.7.6-7, 大阪市

「就学時健康診断へ近見視力検査導入の可能性(1)—幼児の遠見視力と近見視力と視行動の関連—」高橋ひとみらと共同発表, 第58回日本体育学会, 2007.9.5-7, 神戸市

「近見視力検査を円滑に進めるための保健調査—幼

児の場合—」高橋ひとみらと共同発表，第54回日本学校保健学会，2007.9.14-16，市川市

「視力検査結果から使用視力計（字ひとつ視力表と字づまり視力表）を考える」川端秀仁らと共同発表，第54回日本学校保健学会，2007.9.14-16，市川市

「近見視力検査結果と保健調査結果—O幼稚園の場合—」渡辺満美らと共同発表，第54回日本学校保健学会，2007.9.14-16，市川市

「幼児の遠見視力と近見視力」高橋ひとみらと共同発表，第66回日本公衆衛生学会，2007.10.24-26，松山市

<講演>

「健康診断の意義と活用」中野区保健主任・養護教諭連絡協議会，主催：中野区教育委員会，中野区教育センター，2007年6月22日，東京

「わが国における教育改革の現状とその方向」平成19年度教育改革セミナーin鹿児島，主催：文部科学省，鹿児島県産業会館，2007年9月18日，鹿児島市

「学校における健康教育とヘルスプロモーション」平成19年度学校保健研修会，主催：大阪府医師会学校医部会，大阪府医師会館2階ホール，2007年10月12日，大阪市

「中教審のゆくえ」日教販講演会，主催：株式会社日教販，如水会館，2007年10月16日，東京

「生涯を通じて健康の保持増進をめざす疾病予防と保健管理の進め方—ヘルスプロモーションに則った保健管理のあり方—」第57回全国学校保健研究大会課題別協議会（第6課題講義），香川県社会福祉総合センター大会議室，2007年11月9日，高松市

「これからの教育課程のめざす方向」平成19年度朝霞市教育講演会，主催：朝霞市教育委員会，朝霞市民会館，2008年1月9日，朝霞市

「これからの学校保健・安全と医師の役割—様々な専門領域の医師の参加を視野に入れて—」愛知県医師会「平成19年度学校保健シンポジウム（基調講演）」，愛知県医師会館，2008年3月2日，名古屋

「学校保健への医師のかかわりに関する最近の話題」第74回日本小児科学会大分地方会（特別講演），アルメイダ病院研修会館，2008年3月23日，大分市

<その他>

（シンポジウム座長）

「ヘルシースクール—世界の潮流—」第54回日本学校保健学会シンポジウムI，2007年9月15日，市川市

（PTA広報）

「附属中等教育学校の2年2006・2007年度」東大附属PTA広報「ぎんなん」，No.98，2008年2月12日（学会シンポジウム記録）

「ヘルシースクール—世界の潮流—」特集 第54回日本学校保健学会記録『学校保健研究』49(6)：401-404，2008

（巻頭言）

「健康と安全の推進ヘルスプロモーションとセーフティプロモーション」『保育と保健』14(1)：1-2，2008

（新聞記事）

「学校における健康診断」小学保健ニュース（（株）少年写真新聞社），第844号付録，P.1，2008.4.18（付録）

「子どもの睡眠に関する提言」『小児内科』40(1)：133-136，2008

武藤芳照（教授）

<編著書>

『水泳プールでの重大事故を防ぐ』，ブックハウス・エイチディ，2007.7

『学校における運動器検診ハンドブック—発育期のスポーツ傷害の予防—』，南江堂，2007.11

<論文>

「高齢者の筋力トレーニングと介護予防」，（小松泰喜と共著），内科，vol.100，No.5，937-944，2007

「中高年者の健康増進を目的としたランダム化比較試験による運動・生活指導介入のシステムティック・レビュー；介入研究の課題と介入モデルの検討」，（高橋美絵らと共著），日本老年医学会雑誌，vol.44，No.10，403-414，2007

「転倒予防による大腿骨近位部骨折予防」，（小松泰喜らと共著），Monthly Book Medical Rehabilitation，No.84，8-14，2007

「大学における「生命倫理」科目の授業研究—グループ討論と発表会を取り入れた授業の学生による評価」，上岡洋晴らと共著，保健の科学，vol.49 No.8，2007.8

「レジャー活動」と「レクリエーション」に関する

るランダム化比較試験のシステマティック・レビュー」, (上岡洋晴らと共同), レジャー・レクリエーション研究, vol.60, 29-37, 2008

「Effects of Long-Term Comprehensive Health Education on the Elderly in a Japanese Village: Unnan Cohort Study」(Hiroharu Kamioka, Yoshiteru Mutoh, Takuya Honda, Shinpei Okada, Mie Takahashi, Chihiro Izumi and Haruki Sutoh), International Journal of Sport and Health Science, vol.6, 60-65, 2008

「The Relationship among Class Evaluation, Health Condition and Lifestyle of College Students in Japan」(Hiroharu Kamioka, Etsuro Tanaka, Yoshiteru Mutoh, Reiko Aikawa, Ayako Yago, Mina Kaneoya, Ryosuke Takahashi and Takuya Honda), School Health, vol.4, 1-8, 2008

<解説・レポート>

「スポーツ傷害と健康」, 小松泰喜と共著, 理学療法学, vol.34 No.4 2007, 4

「転倒予防の取り組み」, 太田美穂, 小松泰喜と共著, Clinician, vol.559 No.6 2007.6

「人はなぜ転ぶのか? 落ちるのか?」, 奥泉宏康と共著, Nursing Today, vol.22, No.12, 28-33, 2007

「水泳障害」, 金岡恒治らと共著, 整形外科, vol.58 No.8, 2007.8

「スポーツドクターレポート 医学生・研修医のためのスポーツ医学・健康医学セミナー」, 杉山明希らと共著, 臨床スポーツ医学, vol.24 No.9 2007.9

<学会発表>

「高齢者骨折と転倒予防: パネルディスカッション—病院内での「転倒予防教室」10年の経験, 一運営体制, 効果と課題—」(岡田知佐子らと共同), 第56回東日本整形外科学会, 2007.9

「大腿骨頸部骨密度と身体機能による転倒・骨折の予測因子について」, (小松泰喜らと共同), 第8回東京骨・カルシウム・ホルモン代謝学会, 2007.12

<学術講演等>

「高齢社会とスポーツ—健全な老いを求めて—」, 第27回日本医学会総会, 2007年4月, 大阪市

「健康・スポーツ医学の実践と教育—『運動器の10年』運動の推進を目指して—」, 浜松整形外科学会, 2007年4月, 静岡市

「発育期スポーツはどうあるべきか—発育期のスポーツ障害の予防—講演と座長」, 第80回日本整

形外科学会学術総会, 2007年5月, 神戸市

「子どものスポーツ傷害予防「学校における運動器検診の整備・充実をめざして」」, 第5回福岡スポーツ研究会, 2007年6月, 福岡市

「学校における運動器検診の整備・充実むけて—児童・生徒のスポーツ傷害の予防—」, 埼玉県整形外科医会教育研修会, 2007年6月, さいたま市
「八女筑後医師会学術講演会」, 八女筑後医師会学術講演会, 2007年7月, 福岡県八女市

「運動器疾患/骨・関節フォーラム 骨粗鬆症の診断と予防の実際 高齢者の転倒・骨折・介護予防の観点から」, 運動器疾患/骨・関節フォーラム, 2007年9月, 札幌市

「高齢者の骨粗鬆症に伴う転倒・骨折・介護予防の理論と実践」, 東京都目黒区医師会目黒区医師会整形外科部会学術講演会, 2007年10月, 東京都

「運動と年齢—整形外科系—」, 日本医師会第20回健康スポーツ医学講習会, 2007年10月, 東京都

「高齢者指導に役立つ転倒予防の知識と実践プログラム」, 静岡県浜松医療センター第2152回診療協議会, 2007年10月, 浜松市

「子どものスポーツ傷害・事故の予防—学校における運動器検診の整備・充実をめざして—」, 第18回日本臨床スポーツ医学会学術集会講演, 2007年11月, 別府市

「転倒・転落予防の理論と実践」, 愛媛県医療事故・紛争対応研究会, 2008年1月, 愛媛県松山市

「高齢者の転倒・骨折・介護予防の理論と実践」, 第2回宮城老年医療フォーラム, 2008年3月, 仙台市

「児童・生徒のスポーツ障害の予防—運動器検診の充実をめざして—」, 学校医連絡会, 2008年3月, 福岡市

山本義春(教授)

<論文>

Struzik, Z. R., K. Kiyono, J. Hayano, E. Watanabe, and Y. Yamamoto. Increased heteroscedasticity of heart rate in fatal heart failure. *Europhysics Letters* 82: 28005-1-5, 2008.

Yasuda, H., T. Miyaoka, J. Horiguchi, A. Yasuda, P. Hanggi, and Y. Yamamoto. Novel class of neural stochastic resonance and error-free information transfer. *Physical Review Letters* 100: 118103-1-4, 2008.

- Kotani, K., K. Takamasu, Y. Jimbo, and Y. Yamamoto. Postural-induced phase shift of respiratory sinus arrhythmia and blood pressure variations - insight from respiratory-phase domain analysis. *American Journal of Physiology, Heart and Circulatory Physiology* 294: H1481-H1489, 2008.
- Kiyono, K., J. Hayano, E. Watanabe, Z. R. Struzik, and Y. Yamamoto. Non-Gaussian heart rate as an independent predictor of mortality in chronic heart failure patients. *Heart Rhythm* 5: 261-268, 2008.
- Takeda, Y., K. Yamanaka, and Y. Yamamoto. Temporal decomposition of EEG during a simple reaction time task into stimulus- and response-locked components. *NeuroImage* 39: 742-754, 2008.
- Yoshiuchi, K., D. B. Cook, K. Ohashi, H. Kumano, T. Kuboki, Y. Yamamoto, and B. H. Natelson. A real-time assessment of the effect of exercise in chronic fatigue syndrome. *Physiology and Behavior* 92: 963-968, 2007.
- Kikuchi, H., K. Yoshiuchi, K. Ohashi, Y. Yamamoto, and A. Akabayashi. Tension-type headache and physical activity: an actigraphic study. *Cephalalgia* 27: 1236-1243, 2007.
- Kitajo, K., S. M. Doesburg, K. Yamanaka, D. Nozaki, L. M. Ward, and Y. Yamamoto. Noise-induced large-scale phase synchronization of human-brain activity associated with behavioural stochastic resonance. *Europhysics Letters* 80: 40009-1-6, 2007.
- Kiyono, K., Z. R. Struzik, and Y. Yamamoto. Estimator of a non-Gaussian parameter in multiplicative log-normal models. *Physical Review E* 76: 041113-1-8, 2007.
- Nakamura, T., K. Kiyono, K. Yoshiuchi, R. Nakahara, Z. R. Struzik, and Y. Yamamoto. Universal scaling law in human behavioral organization. *Physical Review Letters* 99: 138103-1-4, 2007.
- Pan, W., K. Ohashi, Y. Yamamoto, and S. Kwak. Power-law temporal autocorrelation of activity reflects severity of parkinsonism. *Movement Disorders* 22: 1308-1313, 2007.
- Kishi, A., Z. R. Struzik, B. H. Natelson, F. Togo, and Y. Yamamoto. Dynamics of sleep stage transitions in health and disease. In: *Noise and Fluctuations*, Tacano, M., Y. Yamamoto, and M. Nakao, editors. American Institute of Physics, pp. 671-674, 2007.
- Nakamura, T., K. Kiyono, K. Yoshiuchi, R. Nakahara, Z. R. Struzik, and Y. Yamamoto. Dynamics of behavioral organization and its alteration in major depression. In: *Noise and Fluctuations*, Tacano, M., Y. Yamamoto, and M. Nakao, editors. American Institute of Physics, pp. 667-670, 2007.
- Z. R. Struzik, K. Kiyono, and Y. Yamamoto. Multiscale fluctuation analysis revisited. In: *Noise and Fluctuations*, Tacano, M., Y. Yamamoto, and M. Nakao, editors. American Institute of Physics, pp. 661-666, 2007.
- Kiyono, K., Z. R. Struzik, and Y. Yamamoto. Characterisation of non-Gaussian fluctuations in multiplicative log-normal models. In: *Noise and Fluctuations*, Tacano, M., Y. Yamamoto, and M. Nakao, editors. American Institute of Physics, pp. 635-640, 2007.
- Wu, M. -C., Z. R. Struzik, E. Watanabe, Y. Yamamoto, and C. -K. Hu. Temporal evolution for the phase histogram of ECG during human ventricular fibrillation. In: *Noise and Fluctuations*, Tacano, M., Y. Yamamoto, and M. Nakao, editors. American Institute of Physics, pp. 573-576, 2007.
- Aihara, T., K. Kitajo, D. Nozaki, and Y. Yamamoto. Bayesian adaptive estimation of psychometric functions in noisy environments. In: *Noise and Fluctuations*, Tacano, M., Y. Yamamoto, and M. Nakao, editors. American Institute of Physics, pp. 557-562, 2007.
- Yasuda, H., T. Miyaoka, J. Horiguchi, and Y. Yamamoto. Central cross-modal stochastic resonance in human tactile blink reflex. In: *Noise and Fluctuations*, Tacano, M., Y. Yamamoto, and M. Nakao, editors. American Institute of Physics, pp. 545-548, 2007.
- Kiyono, K., Z. R. Struzik, and Y. Yamamoto. Multiscale fluctuation analysis of complex signals. *AAPPS (Association of Asia Pacific Physical Societies) Bulletin* 17(2): 13-20, 2007.
- 郭 伸, Struzik Zbigniew R., 相馬りか, 大橋恭子, 藩 衛東, 山本義春. 前庭神経の経皮的微弱ランダム電流刺激による神経疾患の治療の試み. *Equilibrium Res.* 67 (1) : 58-64, 2008.
- 山本義春, 内田健康, 小原収, 銅谷賢治, 木村英紀. (座談会) 制御と生命科学. 計測と制御 47 : 237-247, 2008.

山本義春, 相馬りか. 生理調節の複合性・可塑性と制御医療への展望. 計測と制御46: 571-575, 2007.

<招待講演・シンポジウム講演>

山本義春. 長期記憶時系列の生理学・医学分野への応用. 第10回情報論的学習理論ワークショップ・オーガナイズドセッション「長期記憶時系列」, 東京, 2007年11月.

山本義春. 脳とノイズの相互作用を考える～確率共振現象入門～. 第34回日本脳科学会・イブニングセミナー, 出雲, 2007年6月.

佐々木 司 (准教授)

<査読付の論文 (雑誌への投稿)>

Tochigi M, Kato C, Koishi S, Kawakubo Y, Yamamoto K, Matsumoto H, Hashimoto O, Kim S-Y, Watanabe K, Kano Y, Nanba E, Kato N, **Sasaki T***. (2007) No evidence for significant association between the GABA receptor genes in chromosome 15q11-q13 and autism in a Japanese population. **J Hum Genet** 52: 985-9.

Marui T, Funatogawa I, Koishi S, Yamamoto K, Matsumoto H, Hashimoto O, Nanba E, Nishida H, Sugiyama T, Kasai K, Watanabe K, Kano Y, Kato N, **Sasaki T** (2007) *Tachykinin 1* (TAC1) gene SNPs and haplotypes with autism. A case-control study. **Brain Dev.** 29: 510-3.

Tochigi M, Suzuki K, Kato C, Otowa T, Hibino H, Umekage T, Kato N, **Sasaki T*** (2007) Association study of monoamine oxidase and catechol-O-methyltransferase genes with smoking behavior. **Pharmacogenet Genomics** 17: 867-72.

井野英江, 川瀬英理, 佐々木司* (2007) 広汎性発達障害 (PDD) で精神症状を呈した大学生への適応支援の試み. **精神科** 11: 83-88.

Shimabukuro M, **Sasaki T**, Imamura A, Tsujita T, Fuke C, Umekage T, Tochigi M, Oda T, Sugimoto J, Hiramatsu K, Miyazaki T, Jinno Y, Okazaki Y (2007) Global hypomethylation in peripheral leukocytes DNA in patients with schizophrenia. **J Psychiatr Res** 41: 1042-6.

Paraguison R, Higaki K, Yamamoto K, Matsumoto H, **Sasaki T**, Kato N, Nanba E (2007) Enhanced autophagic cell death in expanded polyhistidine variants of HOXA1 reduces PBX1-coupled transcriptional activity and neuronal differentiation. **J**

Neurosci Res 85:479-87.

Minato T, Tochigi M, Kato N, **Sasaki T**. (2007) Association study between the cholecystokinin A (CCK-A) receptor gene and schizophrenia in the Japanese population. **Psychiatr Genet** 17: 117-9.

Yamasue H, Abe O, Kasai K, Suga M, Iwanami A, Yamada H, Tochigi M, Ohtani T, Rogers M, **Sasaki T**, Aoki S, Kato T, Kato N (2007) Human Brain Structural Change Related to Acute Single Exposure to Sarin. **Annals Neurol** 61: 37-46.

Tochigi M, Zhang X, Ohashi J, Hibino H, Otowa T, Rogers M, Kato T, Okazaki Y, Kato N, Tokunaga K, **Sasaki T*** (2007) Association study between the TNXB locus and schizophrenia in a Japanese population. **Am J Med Genet Part B (Neuropsychiatric Genet)** 144B: 305-309.

Marui T, Koishi S, Funatogawa I, Yamamoto K, Matsumoto H, Hashimoto O, Ishijima M, Nanba E, Nishida H, Sugiyama T, Kasai K, Watanabe E, Kano Y, Kato N, **Sasaki T** (2007) No association between the *Neuronal Pentraxin II* gene polymorphism and autism. **Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry**; 31: 940-943.

<依頼原稿 (雑誌からの依頼)>

佐々木司 (2007) パニック障害 (内科医に役立つ心療内科的アプローチ) **Medicina** 44: 2104-7.

山中 健太郎 (助授)

<雑誌論文>

Takeda Y, Yamanaka K, Yamamoto Y. **Temporal decomposition of EEG during a simple reaction time task into stimulus- and response-locked components.** *NeuroImage* 39(2): 742-754, 2008.

Kitajo K, Doesburg SM, Yamanaka K, Nozaki D, Ward LM, Yamamoto Y. **Noise-induced large-scale phase synchronization of human-brain activity associated with behavioural stochastic resonance.** *Europhysics Letters* 80(4): 40009-1-6, 2007.

<その他の業績>

(報告書)

山中健太郎 飯塚太郎 脳波による情動変化モニタリング・システムの開発. 平成19年カシオ科学振興財団年報 96-97, 2007.

(学会発表)

Yamanaka K, Yamamoto Y. **NoGo-specific shortening**

of dephasing time in midline-frontal alpha-band ongoing EEG oscillation. *Society for Neuroscience 37th Annual Meeting, November 3-7, 2007, San Diego, USA.*

Takeda Y. Yamanaka K. Nozaki D. Yamamoto Y.

Extraction of covert response-locked EEG component in NoGo trials of Go/Nogo tasks. *Society for Neuroscience 37th Annual Meeting, November 3-7, 2007, San Diego, USA.*

Iizuka T. Yamanaka K. Yamamoto Y. **Context-dependent modulation of low beta-band EEG activity during continuous Stroop task.** *Society for Neuroscience 37th Annual Meeting, November 3-7, 2007, San Diego, USA.*

大学経営・政策コース
金子元久(教授)

<著書>

金子元久(劉文君編訳), 『高等教育の社会経済学』, 北京大学出版社, 2007年。

金子元久(著)。『大学の教育力』, 筑摩書房。2007年9月。

<雑誌論文>

「日本高等教育大衆化の経験と啓示」, 上海社会科学院『教育発展研究』2007. 2 A. pp.59-62.

「学力の目標・成果管理がもたらすものー学力政策の射程と公教育の亀裂」, 『日本教育政策学会年報』14(2007年5月), pp.55-69

「大学職員の展望」『IDEー現代の高等教育』499(2008年4月), pp.4-11

「若者の変化と大学教育」, 『IDEー現代の高等教育』498(2008年2-3月), pp.4-9.

「評判を作るー大学ランキングとの付き合い方」『IDEー現代の高等教育』495(2007年11月) p4-9.

「高等教育財政の課題ー質を支える財政へ」, 『IDEー現代の高等教育』492(2007年7月) pp.16-21

「国立大学法人の評価」『IDEー現代の高等教育』490(2007年5月号)

<その他の業績>

Motohisa Kaneko(招待講演) Incorporation of National Universities in Japan, *Beijing Forum*, organized by Beijing University. 3 November 2007

Motohisa Kaneko(招待講演) Undergraduate Education in Japanese Research Universities: Meltdown of Convenient Compact, *Tsinghua Forum on Higher*

Education 2007, Tsinghua University, 4-5 November 2007.

金子元久(招待講演) 「政府・大学・市場制度論アプローチ」, 北京大学教育学院招待講演, 2007年11月3日

Motohisa Kaneko(招待講演) Equity and Excellence in Asian Higher Education Systems. : *High Level Forum on Financing Post-Compulsory Education in China: Strategies and Options*. Organized by World Bank, Government of China. 6-8 June 2007.

Motohisa Kaneko(学会発表) Incorporation of National Universities in Japan: Design, Implementation and Consequences. Education Research Institute, Seoul National University 23-25 October 2007.

金子元久(学会発表) 「日本の国立大学法人・价機制」日中高等教育学会, 中国・ウルムチ, 2007年8月2日

山本 清(教授)

<著書>

山本清(単著)「世界と日本のNPM」『公務改革の突破口』村松岐夫編著 東洋経済新報社, 2008, pp.13-28. 総頁数291.

<雑誌論文>

山本清(単著)「高等教育における業績主義とアカウンタビリティ」『大学財務経営研究』第4号, 国立大学財務経営センター, 2007, pp.3-20.

<その他の業績>

山本清(単著)「国立大学の施設整備の課題と対策」『欧米大学の実態調査に基づく国立大学の施設整備方針に関する調査研究報告書』2008, 第7章, pp.288-311.

山本清(単著)「広報」『国立大学法人経営ハンドブック』第3集, 2007, 第6章.

山本清(単著)「行政サービス供給方式の多様化とガバナンス」『財政改革における行政サービスの供給方式の多様化に関する国際比較研究』第1章, 2007.

両角 亜希子(講師)

<雑誌論文>

両角亜希子「高等教育費負担の国際比較」民主教育協会『IDE現代の高等教育』(特集: 高等教育の費用負担) 2007年7月, 492号, 42-47頁

両角亜希子「財務から見た地方・中小規模大学」日

本私立学校振興・共済事業団『月報私学』2007年8月, 116号, 6-7頁

両角亜希子「教学改革を契機としたブランディング戦略(事例:国際基督教大学)リクルート『カレッジマネジメント』2007年11月, 147号, 26-29頁

両角亜希子「グランドデザインの推進を目指したブランディング戦略(事例:京都産業大学)『カレッジマネジメント』2007年11月, 147号, 30-33頁

両角亜希子「私立大学の理事会に関する先行研究」私学高等教育研究所 私学高等教育研究叢書1『私大経営システムの分析』2007年11月

両角亜希子「私立大学における施設整備と資金調達—制度的特徴とその実態—」国立大学財務・経営センター研究報告第10号『国立大学法人化後の財務・経営に関する研究』2007年12月, 366-383頁

両角亜希子「学校法人制度の思想と歴史—大学の操作可能性—」大学評価・学位授与機構『大学外組織評価研究会中間報告書』2008年3月, 45-65頁

両角亜希子「国立・私立を超えた大連携(事例:京都教育大学大学院連合教職実践研究科)」リクルート『カレッジマネジメント』2008年3月, 149号, 10-14頁

両角亜希子「次世代医工連携拠点の創出(事例:早稲田大学と東京女子医科大学の連携)」リクルート『カレッジマネジメント』2008年3月, 149号, 15-19頁

<その他の業績>

東京大学『平成18年度 先導的大学の改革推進委託業務成果報告書 高等教育のファンディング・システムの国際比較に関する調査研究』2007年5月(研究代表者として編著)

両角亜希子「私立大学における施設整備とその資金調達—第2号基本金を再考する—」日本高等教育学会第10回大会(2007年5月26日 名古屋大学)

片山英治・小林雅之・両角亜希子「わが国の大学の寄付募集の現状—全国大学アンケート結果—」東大—野村 大学経営ディスカッションペーパー No.02, 2007年11月

ルーシー・ラボフスキー(片山英治, 両角亜希子, 小林雅之訳)「アメリカの大学における基金の活用」東大—野村 大学経営ディスカッションペーパー No.03, 2007年11月

両角亜希子「日本の大学における寄付募集の現状と課題—アンケートの集計結果から—」東大—野村 大学経営フォーラム「寄付募集を通じた大学の財

務基盤の強化」(2007年12月7日, 東京大学)

教職開発

佐藤 学(教授)

<著書(共著)>

オッリベッカ・ヘイノネン・佐藤学『「学力世界」がもたらすもの』日本放送出版協会 2007年7月 92p.

<著書(共編)>

Manabu Sato and Others, Consultant Editor, Gary McCulloch and David Crook, eds, *The Routledge International Encyclopedia of Education*, Routledge, London and New York, 2008 March. 721p.

<著書(分担執筆)>

「科学者の倫理と教育」(科学倫理検討委員会編『科学を志す人びとへ—不正を起こさないために』化学同人 2007年10月 pp.105-114.)

「教師に対する管理と統制」(藤田英典編『誰のための「教育再生」か』岩波書店 2007年11月 pp.65-83.)

「学校の危機と再生」(日本の教育を考える10人委員会編『今, 義務教育が危ない』ぎょうせい 2007年11月 pp.33-45.)

「リスク社会のなかの教育」(今田高俊編『リスク学入門4: 社会生活からみたりスク』岩波書店 2007年11月 pp.37-54.)

「これからの教養教育」(佐藤学・葛西康徳・鈴木佳秀, 葛西康徳・鈴木佳秀編『これからの教養教育』日本学術振興会・人社プロジェクトシリーズ「未来を拓く人文・社会科学」東信堂 2008年3月 pp.153-177.)

<学術論文>

「学校再生の哲学—「学びの共同体」のヴィジョンと原理と活動システム」(『現代思想』青土社 2007年4月 pp.93-105)

「リテラシー教育の現代的意義」(日本教育方法学会『教育方法36 リテラシーと授業改善』学文社 2007年10月 pp.12-19.)

<翻訳>

ネル・ノディングズ『学校におけるケアの挑戦』(佐藤学監訳 ゆみる出版 2007年6月)(Noddings, Nell, *The Challenge to Care in Schools; An Alternative Approach to Education*, Teachers College Press, 1992, 2005)

<雑誌論文・その他>

「いま、教師に薦める教育書30冊」(『学び方』日本
学び方研究会 2007年10-11月号pp.4-9)

「序文」(浅井幸子『教師の語りと新教育—「児童
の村」の1920年代』東京大学出版会2008年3月
pp.1-2.)

「教師花伝書」(連載『総合教育技術』小学館 2007
年4月~2008年3月)

<学会発表・シンポジウム>

「専門家として学び育つこと=家庭医のプロフェッ
ショナルリズム」(招待基調講演, 日本家庭医学会
第22回学術集会 東京医科歯科大学 2007年6月
24日)

「グローバル時代の学校改革=リテラシーの変容」
(日本カリキュラム学会第18回大会課題研究「グ
ローバル化の中の学力問題とカリキュラム」報告
埼玉大学 2007年7月7日)

「学びの共同体における特別支援教育」(招待基調講
演 広島県特別支援研究ネットワーク第三回大会
広島大学 2007年7月14日)

「言語教育の展望=転換期の課題」(基調講演 日本
学術会議言語文学委員会公開シンポジウム「日本
語の将来—言葉の教育はどうあるべきか」立教大
学 2007年7月21日)

「転換期の専門家教育=教育と看護の未来」(招待基
調講演 日本看護学教育学会第17回学術集会 福
岡国際会議場 2007年8月10日)

Children Living in At-Risk Society; Foundations of
Educational Crisis under Neo-Liberal Educational
Policies in Japan, XIII World Congress of Comparative
Education Societies, Sarajevo, Bosnia, September 4,
2007.

<インタビュー>

「『全国一斉学力テスト』体制への対抗軸は何か」(全
日本教職員組合『クレスコ』大月書店 2007年7
月号 pp.10-14.)

「教員養成に必要とされるグランドデザイン」
(Benesse教育研究開発センター『BERD』2007年
No.10. pp.2-7.)

「国の未来投資, 転換を」(『毎日新聞』2007年12月
28日)

<テレビ出演>

「NHK BS特集『未来への提言』元教育大臣オッリ
ベッカ・ハイノネン=フィンランド学力世界一の
秘密」2007年2月10日)

「これからの日本=日本の学力」(NHK総合2008年
3月8日)

学校開発政策コース

勝野正章(准教授)

<著書>

勝野正章(分担執筆), 「第16条 教育行政」, 『改正』
教育基本法を考える—逐条解説—(浪本勝年,
三上昭彦編著), 北樹出版, 2007年, pp.97-101.

勝野正章(編著), 『開かれた学校づくりと学校評
価』(浦野東洋一, 中田康彦との共編) 学事出版,
2008年, 総頁数162p.

<雑誌論文>

勝野正章(単著), 「新教育基本法制と教育経営—『評
価国家』における成果経営のポリティクス」, 『日
本教育経営学会紀要』第49号, 2007年, pp.2-12.

勝野正章(単著), 「教育の目標管理と質の保障—国
家のヘゲモニック・プロジェクト」, 『日本教育政
策学会年報』第14号, 2007年, pp.8-21.

勝野正章(共著)「教員評価・学校評価の本質的
問題とはなにか」(但馬徹哉と共著), 『教育』
No.740, 2007年, pp.79-86.

勝野正章(単著), 「免許更新制に? 『うまくいくの
か』教師の資質向上策」, 『プレジデント』2007年
7.2号, 2007年.

勝野正章(単著)「いい先生, わるい先生とセア
ート勧告—『教員の地位に関する勧告』共同専門家
委員会勧告の画期性と新たな展開」, 『歴史地理教
育』No.218, 2007年, pp.58-59.

勝野正章(単著), 「教師の主体化/客体化—学校経
営の言説と実践に関する考察」, 『人間と教育』
No.55, 2007年, pp.12-19.

勝野正章(単著)「教員免許法の改正」, 『月刊高校
教育』, 2007年11月号, pp.48-52.

勝野正章(単著)「イギリスの教員評価」, 『学校運営』
2007年12月号, pp.13-16.

勝野正章(単著), 「教員評価・学校評価のポリテ
ィクスと教育法学」, 『日本教育法学会年報』第37号,
2008年, pp.19-30.

<その他の業績>

勝野正章(学会発表), 「教員評価・学校評価のポリ
ティクスと教育法学の課題」, 日本教育法学会第
37回定期総会(獨協大学), 2007.5.26

勝野正章(学会発表), 「学校評価の政策と実践」,
日本教育学会第66回大会(慶応義塾大学),

2007.8.29

勝野正章（学会発表）, 「教師の主体化／客体化」,
日本教育行政学会第42回大会（神戸大学）,
2007.10.14